

**第六期長期策定委員会 傍聴者アンケート**  
**第9回実施分（平成31年3月12日開催） 自由記載欄**  
**【傍聴者 7名】**

**○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。 ※傍聴者7名記載**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民会議の相良委員から、シルバー世代から子育て世代へ予算をシフトしていくべきというお話があり、子育てしている私として本当に有難いご意見とと思いました。</li> <li>・その他防災について</li> <li>・コミセン</li> <li>・社協について、もう少しふみこんだ書き込みが必要</li> <li>・少子高齢化対策について、積極的な対策をあきらめないでほしいと思いました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民会議の委員の方々の意識の高さにあらためて感心しました。（自分が武蔵野市に30年住み）コミセン、社協、青少協、PTA、保育園父母会など、多様な運動がある中で、長計が、0才から生涯閉じるまで、市民がつながるシステムの根幹になるものだと思います。意見の違いを認め、一致点を生み出す力を感じます。より良い市にしていくための参画の重要性を感じました。</li> <li>・今回の委員会が公開になり、傍聴させていただいて本当に良かったです。教育委員との意見交換では、武蔵野市民科の手引は既に冊子となり、学校に配布されています。が、まだまだバージョンアップが必要だと思います。教員の異動スパンが早く、武蔵野市に長く勤務し続けることが難しい中で（自治基本条例も中島飛行機も知らないかも）、武蔵野市を理解し、子どもたちに教えていくための工夫がもっと必要だと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症、情緒…学級の設置について回答がなかった。</li> <li>・やはり「市民性」の解釈がそれぞれ違っているように聞こえる。市民科の認知を進める必要があると思う。</li> <li>・インクルーシブの中で教育長から「他者理解」とあったが、多様性と同様で理解ではなく認め合い。理解はできなくてもしかたがない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「閉鎖的なコミセンがある」のは確かなこと。コミュニティ構想・コミュニティづくり無しに自主三原則を振りかざす利己的な協議会を放置しているのはいかかなものかと思う。自分が便利に使うため、窓口手当をもらうため、利己的な運営委員もたくさんいる。むしろその方が多いかも。多くのコミュニティ協議会は病んでいる。そして自浄能力はない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野らしさが感じられない長計、なるほど！と思いました。緑が少なくなっているという発言もビックリしました。身の回りを見ても家がたくさん建ってきました。緑だけでなく「食」に重要な農地の保全も必要だと思います。庁内のたて割り状況をなんとかしよう←そのとおり！ 全分野において「こういう武蔵野市に向かって！」という大きなイメージを持てる方針がほしい←素敵！だと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのテーマすべてですが、特にインクルーシブ教育についてです。</li> <li>・人権についても追記・取り入れるようと話されたこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗原委員の、インクルーシブとは「体験」ではなく「一緒に過ごす」ということである、という言葉に共感する。教育長の「一同に学ぶ」方法ではなく、「個々の教育ニーズに合わせる」方の方法で考えているという発言があったが、両者は相反するものではなく、共存しながら実現できるものだと考える。</li> </ul>

**その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 ※傍聴者7名記載**

・生涯学習の為に図書館機能について拡大が必要です。武蔵野市の中で図書館難民がいると思います。(桜堤3丁目など)コミセンに図書館・室があると全市民歩いて本を借りに行けます。返却ポストをふやすところからスタートしてほしい。又、学校の図書室に司書を常駐させ、小・中学生の居場所作り、図書学習の充実を図るべきだと思います。子ども達の使わない時間に開放することも一案です。

・少人数学級(30人)武蔵野市ならできると思います。

・意見募集に自分の考えをまとめようと思っても、なかなか時間が自分になく、友人やいろいろな機会に話したりしているのですが、どれだけ、市民、教職員、他部署の職員が関心をもち、かかわろうとしているのか気になっています。「市民参加」は与えられるものではなく、自ら参加し、かかわり、様々な方々とつながって、学び、また、互いの意見を聞き合い、築いていくものだと思います。長計策定のプロセスは本当に大事だと思います。職員の方々のご尽力にも感謝しています。ありがとうございます。

・学校建て替えの微修正のシステムをつくるという考えはすごいと思いました。足立や江東などで小中一貫でパンクした学校の話を知ると、市民と教育委員会がしっかり話をして、見直しをもっていくことが大事だと思います。

・学校現場は、とても多忙で(多忙感ではなく本当に多忙です)1人1人の子どもたちに丁寧に関わる余裕がなく、それを、教員以外でシェアすることも必要だとは思いますが、やはり、一番大事なものは、教員を増やすこと、持ち時数を減らすことだと思います。SSSや事務を入れるようならスキルアップ研修の向上が必要です。渡邊副委員長の「部活動で自己肯定感を高める教員」は何人も見てきたので、“本業で子どもと勝負できること”と思うと、とても興味深い指摘だと思います。SVをつけるにしても、教職員の自主性、対等性が保障されることが必要だと思います。会の議論はとても良かったです。

・教育委員会の資料に障害についての記述が多くあったのがよかった。討議要綱には記述がないので策定委員会で障害のある子どもについても考えるべきだと思う。おそらく、現場・保護者には多くの意見があるのだけれども、彼らは目の前にあるものもこなすのにせいっぱいで、教育委員会や長計策定委員に届くことはないと思う。そこを聞き出す努力をするべき。

・松村さんのような武蔵野市のコミュニティ政策創生期を知る人の話を聞きたいし、中途半端にベテラン面している面々に聞かせたい。(小餅さんも同様な意見を出している)

・少人数学級は都が決められているからとあきらめずに、都や国へうたてることも必要。市独自の少人数ももっと検討すべき。

・お金をかけるところをまちがえないで下さい。変化も進化も望まない分野にお金をかけず、未来につながる子ども達の教育にもっともっと力を入れて下さい。変化したい進化したいと望むところに力をいれる、これは武蔵野らしさにつながるんじゃないかな。温故知新、今まで積みあげてきたことはとっても大事ですけどね。

・自己肯定感を持てるようにするには、先生方のこともそうかもしれませんが、まずは子供たちが学校や地域でどう(あり)いつづけることができるか、この先大切なのではないのでしょうか。そのために子供たちだけでなく、先生方、地域の人も含めたインクルーシブ教育(ソーシャルインクルージョン)の武蔵野市の教育になっていくことを願っています。

インクルーシブ教育について、4つの柱の中にかかげているにも関わらず、具体案については現状とあまり変わらないように感じる。教育委員の方々には、インクルーシブ教育についてもう一度勉強しなおしていただき、過去の延長線上の施策とは異なる、抜本的な計画をたててほしい。また、それを実現するうえで、障がいのある子の保護者に負担を強制することのない仕組みを整えてほしい。

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)